

吉武素二名誉会員のご逝去を悼む

日本気象学会名誉会員の吉武素二元気象庁長官は、平成11(1999)年2月14日、逝去されました。享年88歳でした。生前、日本気象学会およびわが国気象事業の発展のため力を尽くされました。ここに、故人の偉大なご業績を偲び、日本気象学会のますますの発展のために決意を新たにしたいものと考えます。

吉武素二名誉会員は明治44(1911)年1月28日山口県に誕生し、昭和9(1934)年3月東京帝国大学理学部物理学科卒業と同時に、中央気象台に入り気象事業に従事されました。昭和20(1945)年、中央気象台観測部測器課長、続いて昭和21(1946)年、同部測候課長となって終戦直後の困難な状況の下で荒廃した多くの施設の補修や気象測器の補充、ならびに気象観測方法の確立に尽力されました。

その後、昭和28(1953)年には名古屋地方気象台長、同33(1958)年には再び気象庁観測部測器課長、同38(1963)年観測部長、同41(1966)年仙台管区気象台長となられました。そして同44(1969)年3月には気象庁長官となり同46(1971)年3月部下職員に惜しまれながら退官されました。気象庁退官後は国立国会図書館専門調査員兼同司書となり、同51(1976)年までその職務に精励されました。

以上のご経歴からも察せられますように、吉武素二名誉会員は、長年の間、卓抜の学識と豊富な知識、篤実な性格、旺盛な研究心、責任感、指導性をもって気象事業に尽瘁し、気象事業をその成長期から今日の近代的気象事業にまで発展させられました。

そのなかには、降水探知を目的とした気象レーダーを全国に展開された事業があります。特に、富士山頂に、高出力・高性能の気象レーダーを設置することを強力に推進され、昭和39(1964)年10月には富士山頂気象レーダーが完成しました。このレーダーは遙か南方洋上に発生した台風、低気圧や前線に伴う降水も広範囲に捕らえることができ予報精度を著しく向上させました。



吉武素二

さらに吉武素二名誉会員は気象衛星による観測の必要性を早くから認識し、その不可欠であることについて各方面を説得されました。昭和40(1965)年予算成立を見、その第一歩を踏み出しましたが、昭和52(1977)年4月正式運用されるまでのあいだ、さまざまな面でその基礎固めに尽力されました。現在、その恩恵を受けていること量り知ることができません。

吉武素二名誉会員は各種審議会、委員会などの委員を多数委嘱されて関係行政に尽くすと同時に、昭和23(1948)年から同42(1967)年までの間、兼任文部教官(東京大学理学部助教授)としてなど、大学教育に尽力されました。一方、学会機関誌には優れた論文を寄稿し、気象観測法や気象力学の発展に寄与されました。また学会役員として長期にわたり学会の維持発展、特に学会の事務体制の確立に努められました。そして昭和61(1986)年名誉会員に推挙されました。

筆者の記憶に間違いなければ、吉武素二名誉会員が気象庁測器課長をしておられたころ、気象レーダーの全国展開など課長としての激務があるにもかかわらず、日本気象学会の庶務会計を担当し、夜遅くまで助手の課員とともに作業をしておられていた光景が目に見えます。現在使用している会員番号ができたのも、また文書発送などの宛名印刷機を使うようになったの

もそのころと思われます。このように学会の事務体制が確立し財政が堅固となることによって、当時わが国では困難と思われていた「数値予報国際シンポジウム(1960年、東京)」や「境界層および乱流の国際シンポジウム(1966年、京都)」などの国際的な会合を開催することができました。また気象業務としての国際会議「WMO/CIMO IV(世界気象機関/第4回測器・観測法委員会、1995年、東京)」を誘致開催されたことも忘れることができません。これらを契機に、学会活動、気象事業ともに大きく発展したといわれます。またその裏には、当時の学会理事長正野重方東京大学教授との絶妙なコンビがあったればこそともいわれています。

当時、気象レーダーや気象衛星の搖籃期のころを考えると、学会活動と気象業務とが互いに助け合いながら一体となって発展していった古きよき時代といわ

れるかもしれません。それから何十年か経過して、地球規模の環境問題が世界的にも大きく取り上げられている今日、気象学会と気象業務がなお一層緊密に手を携えて進展すべきときが来ている、と痛感させられるのは筆者だけでしょうか。

生前、大きなお声で気象学会および気象業務の目指す方向を指示され、大きなお体で自らそれを実行していかれた吉武素二名誉会員を知る者にとって、ご逝去は心の中に大きな空洞ができた感じがいたします。ここに改めて吉武素二名誉会員の学会活動および気象業務に尽くされた偉大なご業績を偲び、謹んでご冥福をお祈りいたします。同時に日本気象学会および気象業務とともに更なる発展をとげることを祈るものです。

竹内清秀(日本気象協会)

第16回井上學術賞の受賞候補者推薦募集

1. 候補者の対象:

自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた研究者。1999年9月20日現在で50歳未満であること。

2. 表彰の内容:

賞状および金メダル、副賞として200万円。授賞件数は全体で5件以内。

この賞の応募には学会の推薦が必要です。日本気象

学会では、7月ごろに「学会外各賞推薦委員会」を開催して推薦者を選考する予定です。その際の参考にするため、推薦するにふさわしい方をご存じでしたら、簡単な推薦理由を添えて1999年6月30日までに下記までお知らせ下さい。

連絡先：〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-4
気象庁内 日本気象学会
学会外各賞候補者推薦委員会